

事業コード	H18-建-継-44		区 分	国庫補助 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	床固工、溪流保全工		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2532
路線名等	藤倉沢		担当課長名	河川砂防課長 佐々木 卓郎
箇所名	湯沢市藤倉		担当者名	主幹(兼)班長 荒木 洋
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

1. 事業の概要

事業期間	H10 ~ H19 (10年)	総事業費	7.4億円	国庫補助率	5/10	
事業規模	床固工1基、溪流保全工L=587.0m					
事業の立案に至る背景	<p>当該溪流は、流域面積2.94km²の土石流危険溪流で、3つの支流が集落の上流で合流しており、近年、溪流の侵食状況が著しく、融雪期及び梅雨前線の停滞による降雨時に土石流災害の発生が懸念されている。</p> <p>集落には、保全人家39戸、県道稲庭高松線が走っているほか、公民館等の公共施設がある。</p> <p>このようなことから、人家及び地域防災上重要施設である県道稲庭高松線と公共施設等を保全するため、砂防設備を設置し、平成19年度の完成を目指すものである。</p>					
事業目的	<p>【主たる目的】</p> <p>砂防施設を設置することにより、河床を安定させ土砂の流出を抑制し、土砂災害から住民の生命・財産を守る。</p> <p>【保全対象】</p> <p>人家39戸、主要地方道稲庭高松線150m、農道1000m、村道橋3基、公民館</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	750,000	731,700	-18,300	調査・設計による減	
	経費内訳	工事費	484,000	480,885	-3,115	構造物の見直しによる減
		用補費	138,000	125,301	-12,699	構造物減による減
		その他	128,000	125,514	-2,486	構造物減による調査費の減
	財源内訳	国庫補助	375,000	365,850	-9,150	
		県債	337,500	327,000	-10,500	
その他		0	0	0		
一般財源	37,500	38,850	1,350			
事業内容	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償			橋梁及び函渠の選定や統廃合による工事費及び調査費の減を行った。	
事業の進捗状況	<p>全体計画 7.32億円 平成17年度末投資額 6.00億円 進捗率 82.0%</p>					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「あきた21総合計画」第3期実施計画において、「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	事業は計画通り順調に進捗している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	土砂災害危険箇所整備率				
	指標式	概成箇所数 / 危険箇所数				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	24.2 %		データ等の出典	危険箇所調査結果	
	実績値 b	20.8 %				
達成率 b/a	86.0 %		把握の時期	平成18年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	平成16年度の豪雨による山腹崩壊や溪岸浸食の被害が発生し、山腹斜面および河床、側方の浸食が著しく、今後の集中豪雨により土石流災害が発生した場合には、甚大な被害が予想されている。 このようなことから、地元からは砂防設備設置の要望があげられており対策の必要性は高い。	20点
緊 急 性	着手以来、本川下流の整備が進められているが、本川上流と本川上流支川の整備は平成18年度以降の着手となっており、山腹斜面および河床、側方の浸食が認められ、豪雨時には土石流災害の発生により甚大な被害が予想されることから、早期対策の実施により安定化を図る必要がある。	5点
有 効 性	手段の妥当性(代替案立案等の可能性) 砂防事業は、砂防法第5条により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。 整備効果 対策により、保全対象である多数の人家や公共施設の保全を図ることができ、対策の有効性は高い。	10点
効 率 性	費用対効果 事業の費用対効果は2.77であり、効率性は高い。 ・ 総費用の現在価値 7.1億円 ・ 総便益の現在価値 19.8億円 コスト縮減等の取り組み状況 橋梁工を函渠工へ変更するなどコスト縮減に積極的に取り組んでいる。	30点
熟 度	地域の状況 地元住民及び湯沢市との合意形成が図られており、順調に事業が推進している。 事業進捗の見込み 計画通り、平成19年度の完成を予定している。 環境対策 土工部分の法面緑化や、発生残土を現場内利用するなどの対策を講じている。	25点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	90点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H18-建-継-44)
箇所名 (湯沢市藤倉)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	県民のニーズ					
	県民のニーズの変化	変化なしまたは増加している	20	20		
		若干低下している	10			
		非常に低下している	0			
	計		20	20		
緊急性	危険度					
	斜面、溪流等の危険度	変化なしまたは増大している	10	5	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定	
		若干低下している	5			
		非常に低下している	0			
	計		10	5		
有効性	災害発生時の影響					
	保全対象数の変化	変化なしまたは増加している	10	10		
		若干減少している(80%以上)	5			
		非常に減少している(80%未満)	0			
	計		10	10		
効率性	事業の効率性・進捗状況					
	費用便益分析(B/C)	2.0以上	10	10		
		1.0以上2.0未満	5			
		1.0未満	0			
	対策工法、工事に関連する課題		課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
			課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
			課題はあるが、解決する見込みである	3		
			課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
コスト縮減計画		具体的なコスト縮減計画がある	10	10		
		具体的な計画はないが、検討中である	5			
		コスト縮減計画無し	0			
	計		30	30		
熟度	地元の協力状況					
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	5		
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5			
		計画より遅れている(70%未満)	0			
	地元住民・関係自治体等に関連する課題		課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	20	用地、補償物件等
			課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
			課題はあるが、解決する見込みである	5		
			課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
	計		30	25		
合計			100	90		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		